

新台湾国策シンクタンク

Newsletter

- ・ ECFA の進展と中国の「台湾に利を譲る説」をめぐる国内外の反応 - - 1
- ・ 利を譲る?! 台湾は政治的地位と引き換えに中国から利を譲って貰うのか - - - - - 2
- ・ ECFA と台湾の歴史的脚注 - - - - 4
- ・ 不在者投票実施の問題 - - - - -5
- ・ 直近の米中関係が台湾へ与える影響 - - - - - 6
- ・ 台湾事件簿 - - - - - 9

ECFA の進展と中国の「台湾に利を譲る説」をめぐる国内外の反応

台湾の馬英九政府が推進する中国との経済協力枠組協定 (Economic Cooperation Framework Agreement, ECFA) 調印へ向けての動きは、最近微妙な展開を見せている。先般、台湾内部から政策説明が不十分であると批判された馬政府は、旧正月以降、地方への遊説を開始したが、馬政府の政策対話の旅は、依然として「トップダウン」の政令伝達方式に終始。また、与党支持基盤の強固な選挙区から展開し、

さらにまた地方の国民党籍国会議員が提供する福引きキャンペーンと絡め合わせて実施したため、多くの物議を呼んだ。

こうした状況にもかかわらず、馬政府は依然として5月の第5回「陳江会」(陳雲林・海峡兩岸関係協会会長と江丙坤・海峡交流基金会理事長による会合)のアジェンダにECFAを盛り込み、6月に正式調印すると発表した。呉敦義・行政院院長と頼幸媛・行政院大陸委員会主任委員は野党からの質疑に対し、ECFAの内容に一国二制度や平和統一といった文言が盛り込まれることは絶対ないと保証し、もしそのようなことになれば辞職すると語った。これと同時に、ECFA推進作業がブラックボックスの中でどんどん進められるのに反対する野党民進党や台湾団結連盟を含む50余の市民団体は、ECFA反対ののろしを上げ、ECFAをめぐる公民投票の署名運動を積極的に展開している。

折りしも、中国の指導者がECFAに関連して、台湾に対し柔軟な宣伝攻勢をしかけて来た。胡錦濤・中国国家主席は、旧正月の前に福建省の漳州に赴いて台湾系企業家を訪問した際、兩岸のECFA交渉について、「台湾同胞、特に農民の利益を十分に考慮し、円満に進める」と説明した。また、2月27日、温家宝・中国国務院総理はウェブ新華網でネットユーザーとやり取りした際、ECFAについて、兩岸の経済規模の

違いを考慮し、台湾の中小企業と大勢の基層の人々、特に農民に配慮するために、「中国は利益を譲ってもよい」と明言した。陳雲林・海峡兩岸関係協会会長は3月4日、兩岸は5月か6月にECFAを調印する見通しであると述べたが、「利益譲渡」を如何に体現するかについては、「双方にはそれぞれの懸念があり、兩岸の専門家によって協議する」とあいまいな表現に止まった。王毅・中国国務院台湾事務弁公室主任は3月5日、ECFAの調印を「平等互惠・情理に合わせ・善意を尽くし・丁寧に良い仕事をしよう」との4原則にまとめ、これを中国の対台工作の指導方針とした。

今年3月14日はちょうど中国が反国家分裂法を採択してから5年目に当たり、温家宝総理は全国人民代表大会で、関税減免とアーリーハーベストの実現を含む「利益譲渡説」について、改めて言及した。温氏は、兩岸を兄弟に譬え、兩岸は50年の政治のために5000年の中華民族文化を失ってはいけなないと訴え、兩岸（中台）の統一を暗に示唆した。これに対する馬政府の反応は、ECFAを「兩岸交渉は対等互惠のものであり、台湾にとって最大の権益を目指すもの」と位置付け、「利を譲る」という様な表現を避けた。国民党籍の王金平・立法院長（国会議長）は、「現在、台湾社会にはECFAによって台湾の実質的な主権が流出するという憂慮が広まっており、政府はこの懸念に対し説明すべきである」と述べ、王院長自身も政府に対し、立法院における兩岸対策グループ設置の再検討を呼びかけた。野党民進党は、馬政府が6月のECFA調印を目指しているのは、国会の監督を避けるため、あえて立法院の休会期間に乗じ、ECFAを自動的に発効させようとするものとして批判している。

中国の台湾に「利を譲る」発言で、ECFA論議はより多くの物議を醸す結果となった。新台湾

国策智库経済組研究員陳錦稷と国家安全組シニアフェロー劉世忠両氏は、「利を譲る説」が台湾の内外に及ぼすネガティブな影響について、次のように分析している。

利を譲る?!台湾は政治的地位と引き換えに中国から利を譲って貰うのか

国共合作、ECFAの急速な盛り上がり

中国と台湾のECFA調印の動きが、最近急速に加熱してきた。胡錦濤主席・温家宝総理が相次いで「利を譲る」発言を行い、王毅・中国国務院台湾事務弁公室主任は、更に踏み込んで「平等互惠・情理に合わせ・善意を尽くし・丁寧に良い仕事をしよう」と提言した。台湾の馬英九総統も、5月から6月にECFA調印に漕ぎ付けたいと述べ、「タイムテーブルはない」とした前言を反故にした。馬政府と中国政府が連携してペースを速めていることから、ECFAの案件が急速に加熱し、双方が予定している通り5月に交渉に入り、6月に調印される可能性が非常に高まった。

農産品に限られる恐れのある「利を譲る」発言

中国政府のいう所謂「利を譲る」は、特に台湾農民に向けたもので、その意図するところは、台湾人民からの支持を得ようと「中国農産品の輸入開放を拡大しない」、「中国人労働者の來台を開放しない」という二原則を打ち出した馬英九に呼応しようとするところにある。しかしながら、中国のいう利益譲渡の範囲は、台湾農民に対してのみという可能性が高い。

施顏祥・経済部長（経済産業相に相当）が立法院でアーリーハーベストラストに対し非常に

保守的な発言をしたのは、経済主管省庁が利益譲渡の範囲に対して楽観視していないことを示しており、一応の評価を加えた後、胡錦濤主席のいう「台湾農民の利益に配慮する」という範囲を一步も出ないものと考えていることが分る。その他の非農業項目の交渉—例えば、工業製品の関税減免項目、台湾金融サービス業の中国進出に対し WTO 規範を超える優遇提供、台湾が提起したアーリーハーベストリスト等に就いては、中国は王毅のいう「平等互惠・情理に合う」の基本原則を堅持することになる。

残る疑問——投資保障・知的財産権保護は盛り込まれるか

馬英九総統がかつて披露した ECFA の具体的内容は、主に三つの部分——関税減免、投資保障、知的財産権の保護を含んでいる。しかし、施顏祥・経済部部長および王美花・知的財産局局長が明かした内容は、台湾は知的財産権の保護を兩岸経済協議の枠組みに盛り込むよう努力し、第 5 回江陳会での交渉を要求するというものに止まっており、また、知的財産権はアーリーハーベストリストに列せられないことを認めた。台湾にとって最も重要な投資保障と知的財産権の保護を ECFA に盛り込むのは、馬英九総統の一方的な期待に過ぎないようだ。さらに、馬政府が ECFA の中に契約打ち切り条項を盛り込もうとの考えに、中国側が同意することはないであろう。ECFA で投資保障と知的財産権の保護を決めるという馬英九の談話は、第 4 回江陳会において元々調印が予定されていた兩岸租税協定と同様に、最後にはよく分からない何らかの要因によって、急遽ストップがかかる可能性も大いにある。

中国は ECFA で馬政府の対中傾斜路線を縛り付け、台湾の行く先を囲い込む

2008 年末の胡主席 6 つの談話以来、中国は経済統合で香港の完全な中国依存を促したモデルである CEPA をコピーして、経済統合の加速という同様の方法で、台湾を中国経済に従属させるとの目的を達成しようとしている。農業問題は当然ながら、中国が台湾に対して最も関心を抱いている点ではない。利を譲るといふ言い方は、単に副次的な農業問題を ECFA 交渉の障害にしないためのものであり、年末の五大都市選挙の前に間に合うよう ECFA を片付け、延ばし延ばしにすることで五都市選挙の議題、ひいては 2012 年の総統選挙の議題となることを避けようとしている。

中国が「利を譲り」、台湾は主権を交換しようと言うのか？！

中国の政治的目的は、言ってしまうと、経済利益を以って台湾の中国依存を図るため、ECFA を大いに利用して馬政府が維持する対中傾斜の政治路線を縛り付け、台湾の行く先を囲い込むことにある。これはまた台湾の国民が ECFA に対し最も疑問を抱く点でもあり、同時に馬政府に対する不信任の源でもある。兩岸の交流があまりに速いスピードで進んだ結果、近い将来、台湾は政治的地位と引き換えに、中国から経済の持続的な利益を得なければならなくなる。中国と馬政府は相互に唱和して、利を譲るといふ言辞を弄して台湾の民心を取り込もうとしているが、それは対台統一戦線という中国の目的の下で、巧みに隠蔽された政治手段に過ぎない。